

あきたの 地域医療通信

2009年1月 第3号

発行 秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策推進チーム



昨年、10月1日、秋田大学に県からの寄附講座である「総合地域医療推進学講座」が開設されました。本講座の長谷川仁志教授から、講座開設にあたっての、抱負を語っていただきました。

学生・研修医の皆さんの将来のはばたきを心から願う 熱意と愛情に満ちた親身の指導の輪を秋田県全体で

このたび秋田県からの寄附講座として開設いたしました総合地域医療推進学講座の長谷川です。全国でもはじめての講座名であり、いろいろな可能性を探りながら、現在、主に次の活動を中心に活動をはじめております。

近年、全国各地で医師不足やこれまでの日本の医学教育の不十分な部分に起因すると思われる種々の地域医療問題が毎日のように生じております。将来に向かって確実に前進するには、県内の医療従事者が一体化して総合力を発揮することが重要です。秋田県の現状では、まずは各地区の病院における勤務医（総合臨床能力を持った各科の専門医）の充実を得ないで地域医療の充実は困難と考えられます。その先の一次医療圏は、連携病院や開業医の先生との地域医療連携を図り、県民の皆様のご協力を得ながらしっかりと維持していく方針が最善と考えられます。このような背景から本講座は皆様と共に、すぐれた総合臨床能力を持ち適切な医療連携ができる各科の専門医や本県への使命感を持った医師を育成することと、そのための教育・研究を行うことにより、総合的に県内の医療充実を推進することを目的としていく必要があると考えております。



1. 小・中・高校生に対するプロジェクト

医師という仕事、秋田大学医学部、秋田県内における医療の魅力についての情報を様々な手法で効果的に提供し、秋田県への使命感を持った優れた生徒が、より多く秋田大学医学部に入学するような活動を推進します。

2. 医学生に対するプロジェクト

医学部1年生の4月から講義を受け持ち、最新の医

学教育理論、広義のチーム医療を充実するためのコミュニケーション・インフォームドコンセント教育など患者中心の医療を実践できる医療人の育成教育を推進します。また、各講座・各病院・医師会の先生と協力して、一線の医療現場におけるプライマリケア教育を1年生から積極的に導入し、低学年から多くの症例・臨床現場をしっかりと経験することによりモチベーションアップを促すとともに、秋田県への使命感、早期からの各科・各病院との連帯感を育成していきたいと考えております。



3. 卒後臨床研修・生涯教育に関するプロジェクト

最近の成人教育理論を基盤とした医学教育の実践とその教育の連鎖により、秋田大学および県内の各医療機関に、学生や研修医の皆さんの将来のはばたきを心から願う熱意と愛情に満ちた指導医があふれることが重要であり、このマインドこそが地域医療充実の生命線と考えております。その結果集まってくる皆さんの初期および専門医研修医の皆さんに対し、県内の医療従事者が親身の指導を提供する姿勢が大切です。本講座は、この教育の連鎖達成を重視した教育システムをコーディネートし、各科横断的に各分野の卒後および生涯教育をサポートしていきたいと考えております。

4. 教育システム・教材の開発プロジェクト

上記の各領域におけるe-Learning教材、効果的シミュレーション教材、DVD映像教材など、効率的教育教材の開発・作成を推進していきます。これらにより、プライマリケア等に関する各科必須重要事項を効率よくかつ取りこぼしなく教育し、さらには県内の医療従事者間で情報を共有することにより地域における医学教育および医療連携充実に寄与することを目的としております。

この他にも、本講座が皆様とともに秋田県の地域医療充実にかかわる分野の活動に貢献できますよう全力で努力する所存でございますので、ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

第4回 医師臨床研修指導医ワークショップ

平成20年10月4日(土)～5日(日)に、秋田市の秋田県社会福祉会館を会場に、今年度2回目の医師臨床研修指導医ワークショップが開催されました。



県内指導医49人の先生方に参加していただき、2日間の内容の濃いワークショップとなりました。



外部講師として、東北厚生局の大澤英司医事課長、福井大学病院の寺澤秀一先生、(社)地域医療振興協会の名郷直樹先生、吉村学先生においでいただきました。

指導医講習会の受講義務化を受け、今年度から年2回開催しています。

研修医 講習会

第2回レジデント・スキルアップキャンプ2008

平成20年11月21日(金)～22日(土)に、大潟村のホテルサンルーラル大潟を会場に、「第2回レジデント・スキルアップキャンプ2008」が開催されました。

県内臨床研修医と岩手県、青森県の臨床研修医合わせて68人に参加いただき、初期臨床研修期間中に共通して直面する課題の解決に向けた講習が行われました。また、所属を越えた研修医同志の情報交換の場として、交流を深めていただきました。

受講者からは「お互いの診断に苦勞した症例や、ヒヤッとした事例を知れてよかった」「各症例を共有できるとやはり勉強になる」「日々の診療に活かせる講義だった」等の意見が寄せられました。



病院合同説明会

11月27日、秋田大学チュートリアル室において県内臨床研修病院(14病院)の合同説明会が開催されました。

各臨床研修病院の指導医、研修医の先生方が、参加した秋田大学の医学生に対し、自院の研修プログラム等について熱心に説明しました。

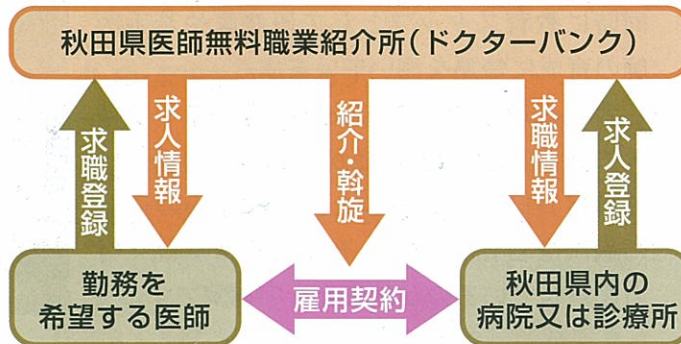
今後も、情報提供の機会をできるだけ多くしていきたいと考えています。



ドクターバンク

職業安定法に基づく秋田県医師無料職業紹介所(ドクターバンク)を介し、県内の病院または診療所での勤務を希望する医師に対し就職先の斡旋、紹介等を行います。

○県内外、現役・引退、常勤・非常勤を問わず、地域医療に関心のある医師(秋田県内の病院又は診療所での勤務を希望する医師)はご連絡ください。



お問い合わせ先
(求職票及び求人票の送付先)

秋田県医師無料職業紹介所(秋田県医務薬事課医師確保対策推進チーム内)
電話:018-860-1410 FAX:018-860-3883
E-mail :ishikakuho@pref.akita.lg.jp

指導医メッセージ

「雄勝中央病院においで下さい」

雄勝中央病院
院長 中村正明 先生



雄勝中央病院は秋田県の最南端、湯沢市にあります。湯沢は七夕絵灯籠や大名行列、さらに犬っこ祭りなど情緒溢れる街です。湯沢の文化に触れながら、充

実した研修生活を送って欲しい、というのが私たち指導医の思いです。

雄勝中央病院の研修では人と人とのつながりを最も重視しております。研修医と指導医や病院スタッフ、研修医と患者や家族との人間関係を築き、病気と共に人間も診るという姿勢を学んで欲しいと思います。

指導医は多士済々であり、年齢的には40歳代が殆どです。いずれも情熱的で、温泉研究会など院外研修も盛んに行われております。カリキュラムは各自の個性を尊重し、研修医と相談の上で決定しております。当初は様々なタイプの研修形式を提唱する病院が多かったのですが、最近では当院のように個別のカリキュラムを組む病院が多くなったのは喜ばしい事と思います。研修医数が少ない事から臨床症例は豊富に体験できます。皆様のお出でをお待ちしております。

あきたの
病院紹介
vol.3



秋田赤十字病院

〒010-1495 秋田市上北手猿田字苗代沢222-1
tel 018-826-5000

秋 田赤十字病院は大正3年(1914年)に「総合病院が欲しい」という地域の熱い想いで設立され、以来地域の基幹病院として発展してきました。平成10年7月、秋田市東南の現在地に移転新築しました(第4代病院、病床数496床)。

診療科は現在21科を標榜しています。また、当院は県内唯一の救命救急センターを有し、3次救急医療の中核的役割を果たしています。同センターの他に、総合周産期母子医療センター、神経病センターでは政策医療を担っています。さらに、消化器病センター、腎透析センター、健康増進センターも備え、急性期医療から保健予防活動まで幅広い活動を行っております。他に、エイズ拠点病院、地域がん診療連携拠点

病院等に指定されております。

また、赤十字組織の一員として、災害救護活動や国際救護活動を積極的に行っており、過去の大地震等災害時には、その都度救護班を派遣しております。新潟中越地震、および岩手・宮城内陸地震では、研修医も医療チームに帯同しました。

これらの活動を支える優秀なスタッフが同時に教育スタッフとして研修医や若手医師の育成に情熱を注いでいます。

病院の理念である、人道・博愛の赤十字精神に基づき、患者の皆様が「来て安心」・「受けて満足」・「確かな信頼」を得られる心の通った病院を目指し、また、そうなるべく日々努力を重ねているのが秋田赤十字病院です。



お問い合わせ先

E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel.018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策推進チーム 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号